

1. はじめに

福山市は、「協働」を重点施策のひとつに掲げ、「自助」「共助」「公助」による協働のまちづくりを進めてきました。

2005年（平成17年）7月、「福山市協働のまちづくり指針」を策定し、2006年（平成18年）、「協働のまちづくり元年」として、行動計画に沿った取組を実施してきました。

推進の方針を、①お互いの情報を共有します。（情報共有） ②人材づくりを通じた意識づくりや啓発を行います。（人材・意識づくり） ③みんなが活動・参加しやすいシステムづくりを行います。（システムづくり） ④協働に関する事業の評価・公開を行います。（評価・公開）とし、取組を実施してきました。

桜丘学区も「福山市協働のまちづくり指針」に基づき、「桜丘学区まちづくり推進委員会」を設置し、「安全・安心のまち」「人と人の絆の深いまち」「高齢者を守るまち」「女性や子どもたちを守るまち」を目指して推進してきました。

「まちづくり行動計画」が着実に実施されることにより、桜丘学区に愛着をもち、「ふるさと」を実感できるまちづくりをめざしていきます。

2. 桜丘学区の概要

桜丘学区は、福山市の中心から北東部に位置し、近世から福山城の「城下八カゴウ」の一部として繁栄し、近年、企業の誘致等による住宅団地の造成や分譲住宅の建築に伴う人口増加により、1975年（昭和50年）4月に桜丘小学校が開校し、桜丘学区町内会連合会が発足しました。

2015年（平成27年）9月末現在、9自治会 2,434世帯、5,279人が居住しています。

① 桜丘学区の変遷

1933年（昭和8年）	深安郡吉津村、奈良津村福山市へ編入
1952年（昭和27年）	本通り町内会発足
1954年（昭和29年）	旭通町内会発足
1957年（昭和32年）	丸山町内会発足
1959年（昭和34年）	北吉津団地町内会発足

1961年(昭和36年) 川端町内会発足
 1962年(昭和37年) 奈良津町内会発足
 1965年(昭和40年) 北美台町内会発足
 1974年(昭和49年) 高美台町内会発足
 1975年(昭和50年) 桜丘学区町内会連合会発足
 1992年(平成4年) 桜丘学区明るいまちづくり協議会発足
 1996年(平成8年) 南陽台町内会発足
 2005年(平成17年) 町内会を自治会に改称
 2006年(平成18年) 桜丘学区まちづくり推進委員会発足
 2008年(平成20年) 桜自治会発足
 2010年(平成22年) 本通り, 睦会, 川端自治会合併し本通り自治会

② 桜丘学区自治会連合会加入世帯数の推移

自治会名	加入世帯数 (2015年4月1日現在)				
	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
奈良津町	476	473	459	444	438
旭通	289	291	294	290	286
高美台	215	222	222	224	221
丸山	175	175	175	183	184
北美台	102	104	106	102	105
北吉津団地	65	60	60	56	52
南陽台	84	85	86	84	84
本通り	123	124	125	124	125
桜	50	50	50	50	48
合計	1,579	1,584	1,577	1,557	1,543

3. 桜丘学区の現状と課題

「桜丘学区まちづくり計画アンケート」からみる現状と課題

○アンケートの回答者について

40・50才代が29.7%

60・70才代が58.5%

であり、回答の88.2%を占める。

特に60・70才代のアンケート意見等には学区の現実的な状況に対する意見が多く寄せられている。

○住みやすさ・住みにくさについて

交通を含む生活利便の良さ・安心と安全の充実・医療福祉施設の充足感・近所付き合いの良さが挙げられる。

住みにくさについては、高齢化を反映してか、道路交通の利便性をより求める意見が多い。

○まちづくり活動について

動員や誘いがあれば参加する意向が見受けられることから、今後の自治会等の参加要請の手法に工夫が必要。反面、行事の多さ・役員にならない・会費の負担が大きい等の意見がみられる。

○充実させたい事業について

昨今の全国的な災害・事故・犯罪を反映してか、当学区の防災・防犯の充実ぶりには期待感がある。加えて、高齢者・一人暮らしのサポート関連の充実にも強い期待が出ている。

また、地域の歴史・文化を学ぶ機会、次世代を担う子どもたちへの伝統・文化の継承の必要性についての意見が多くみられた。

4. アンケート結果から各部会の主な意見・課題

（地域福祉部）

- 地域生涯スポーツの普及と健康推進を図る目的で、年1回のグラウンドゴルフを計画しており、参加者も増加の傾向にある。
- ふれあい事業は福祉の原点的な活動になっている。200人を超える一人暮らしの高齢者の方などへの年2回（4月・12月）の安否確認訪問は多くの方が参加し、孤独死の抑制防御に大きな力となっている。また、訪問時には、料理教室の皆さんが作った、季節料理を添えた弁当を届けるなどの気配りも学区の力によるものである。時に、一人暮らしの高齢者の方が近隣の人たちとの連携がなく、情報が遅れることもあるが地域ぐるみで取り組みたい。



（地域安全部）

- 地域安全パトロールでは地域住民の安全確保を目的に毎日2回児童下校時と夜間に青色防犯パトロール車で学区内全域を見回っている。最近ではスタッフが減少気味で今後の運営に支障が出る恐れがあり、新たなスタッフ確保が急がれる。
- 防災啓発活動は6月に小学校グラウンドで300人を超える学区民・小学生と様々な項目による訓練を実施している。有事の際には小学校グラウンドにすぐ結集することは困難なことも視野に入れ、各自治会での取組を明示する必要がある。

（地域環境部）

- 休園中の桜丘幼稚園を活用して『100万本のばらのまちづくり』に呼応したばら花壇整備が活発化しており、年2回の植栽講座を交えて実践的な植栽をしている。参加者が20人程度なので今後更に増加するよう

呼びかけている。

- 環境面での意識向上を狙って年 1 回講演会をしているが、学区の盛り上がりには欠けているため、実践を交えた活動が必要と考えている。

(教育文化部)

- しめ縄・門松づくりは小学校と連携しての一大行事に育っている。しめ縄づくりは伝統行事が薄れていく中、子どもたちが地域の古老と一緒に縄を縛ったりしながら自宅の正月を飾ろうとする意識を育てている。門松づくりは、作成は大人中心でありながらも、子どもたちも作り方を楽しみながら参加しており、学区の小学校・保育所・公民館・コミュニティセンターの正月の玄関を飾る手作りの伝統行事が伝えられている感がある。しかし、何れも作成できる技術をもつ人が限られた高齢者であり、次世代への技術の継承が問われている。

(健康推進部)

- 大運動会は参加者人数 2,000 人を超える学区最大行事であり、すべての年齢層が集い楽しんでいる。
- 子ども交流会は多彩なメニューの中で子どもたちが素直に楽しめる行事となっている。
- 健康ウォーキング大会は健康づくりの習慣化がねらいの人気行事となっており、蔵王登山は小学生から高齢者まで幅広い層に広がり、100 人を優に超える学区のメイン行事に成長している。

